

公表

児童発達支援及び放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	NPO法人HA-HA-HA		
○保護者評価実施期間	2025年4月1日～2025年12月18日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52 (回答者数)	91
○従業者評価実施期間	2025年4月1日～2025年12月18日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	18

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意図的に行っている取り組み	さらに充実を図るための取組等
1	福祉職による遊びを介した支援の中にコミュニケーション支援を取り入れ、さらに理学療法士や作業療法士などの身体面・運動面からの支援、教育専門職からの教育面からの支援を行い、多職種による生活自立や就学以降のアカデミックスキルなど、自立に必要な要素を総合的に支援しています。	総合支援となるよう意図的に事業所のプログラムを持たず、子どもの必要とする支援を立案し、多くの専門職の視点が入るようカンファレンスでケース分析を行っています。  学習支援を望まれる保護者は多いが、学習・運動・生活自立・余暇力…すべての支援においてコミュニケーションスキルは要求されるため、支援の中にコミュニケーション支援を介在させている。	専門性の向上や多職種の連携を常に向上させ続けています。  また事業所内外での研修実施・参加により、専門性の向上だけではなく、支援者間のネットワークの強化にも取り組んでいます。  その強みを活かすため、またプログラムを持たない柔軟な支援の特徴を活かすため、子どもが経験できる、事業所内でできることを増やしていく活動も並行して行っています。
2	コミュニケーション支援を支援中のすべての場面において介在させます。これは意思決定だけではなく、子どもの経験をその場に居た、から、その経験を経験値として自らに積み上げる、その力に繋げるためです。運動、学習、生活力など多方面の支援に繋げる支援を行っています。	その上で定期面談やペアレント・プログラムへの参加の促しなどから、保護者支援にも力を入れ、子どもの過ごす環境への適応を向上させ、より発達を促せる環境構築に力を入れています。	
3	いずれの支援にもエビデンスや根拠が説明できる支援となるよう努めています。そして子供の将来に向けた支援となるよう、子どもの発達を想定した支援を立案し、自らが支援を求められる、また自立してできるスキルの獲得、環境構築を進めています。加えて、就労だけではなく、趣味や余暇をもって過ごせる支援をします。	加えて、保育所等訪問支援や相談支援、その訪問先他事業所も含めた、事業所内外の多職種による、総合支援の強化にも取り組んでいます。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
1	就学期に児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行ができないことが多い。	放課後等デイサービス利用児が主に利用できる時間帯の空き枠が少ない。	早期に就学期の移行調整を行い、移行が難しい場合には早期に他事業所の紹介を行うなど、継続支援が可能となるよう、スムーズな支援移行に努めています。
2	職員数が多いため、継続した職員育成や共通認識の醸成が難しい場面を迎えることがある。	個別支援を行っているため、職員の配置数は増加する。そのため退職率は低いと考えているが一定数の退職者は出やすい傾向にあるため。	入職時研修などを行い、子どもの支援における共通認識の形成を図る。